

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

総決起大会を開催

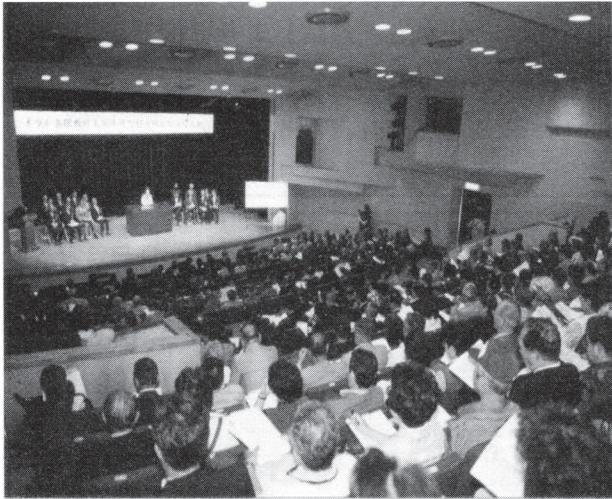
オウム真理教問題を抱える全国29の市区町村等が5月31日、烏山区民センターホールに関係者340人を集めて「オウム真理教対策関係市町村連絡会総決起大会」を開催した。閉会后、代表者が小泉首相らに国による抜本的対策及び観察処分の延長等の要請行動を行った。

世田谷区長大場啓二氏の開会宣言で始まり、主催者を代表して、オウム真理教対策関係市町村連絡会会長、足立区長鈴木恒平氏の挨拶、各来賓挨拶に続き、各地のオウムとの戦いの現状報告がされた。

最初に地元烏山の住民協議会を代表して、千葉範子氏から烏山の現状報告と、来年1月で期限が切れるオウム真理教に対する観察処分の延長を求める署名運動を成功させる決意が話され、会場から拍手が湧き起こった。

千葉県松戸市からは稔台オウム対策委員会代表の大井藤一郎氏が、5年の賃貸借契約を3年にさせた事、その解決の為に必要な1200万円の募金を集めた内容が語られた時は会場から「オー」という声があがった。

滋賀県甲西町からは町長の関治夫氏が、監視小屋、監視カメラ、デモ、抗議行動、看板の設置等の住民の活動が語られた。反対運動の支援に3年間で300万円の補助金を交付した内容な



ど、行政と住民が手を結び、頑張る決意を表明した。大会決議が松戸市助役宇田川正氏によって行われ、満場の拍手で決議された。最後に閉会宣言を埼玉県越谷市長板川文夫氏が行い、閉会した。

各住民協議会の交流会を開く

総決起大会終了後、参加していた松戸市(16名)、流山市(6名)の住民協議会と場所を集会室に移し、交流の場を持った。烏山からは倉本会長以下、20名が参加した。進行は山田実行委員長の司会で進められ、最初に各対策協議会会長より挨拶の後、意見交換に移った。

松戸市の場合

12年5月オウムが入居。食品工場が稼働。役所、電力会社、保健所、税務署等に調査の結果、オウムと判明。1500世帯分の反対立看板を作成。

6月2日に1100人を集め、「稔台オウム対策委員会決起大会」を開く。7月より周辺住民による一日2交代の監視活動を開始。

この工場は関東地区の給食センターで、パン、即席ラーメン、麺、バナナ、豆腐といったものを製造及び仕入れをする。そして、電磁波を注入した物を出荷する。6人の女性出家信者が従事している。名義人は男性で、5年契約は法的に有効であった。平成14年5月31日、その目標額を達成した。



た。

地元町会長、商店街会長、議員でオウム側7人と話し合う。5年の契約を3年で出て行ってもらおう。その代わり、その移転経費及び原状回復費用で1200万を払うことを協定書を書き合意する。オウム側と10回の話し合いをしたが、1回することになり、市役所とは3回の会合を持った。

松戸市では1200万円の支払いを募金で賄うことになり、まず市役所の職員が、200万円を集めて寄付。続いて市役所の幹部から120万円の募金を集めた。平成14年5月31日、その目標額を達成した。

流山市の場合

最初は集合住宅に女性一人の契約に対して数名が居住していた。それを違反として不動産屋と住民が一緒に家主を通じて居住女性に交渉をしてもらった。結果は一名残っているのみ。オウム信者の居住を二度と繰り返さないように立て看板などを設置して今後とも注意を呼びかけて行く。

会場での意見

「烏山には何故、オウム反対の看板がないのか、現場のマンションにも横断幕があるだけで看板がない。これでは反対しているのかどうか判らない」

「協議会ニュースの製作、新聞折込には資金が大変でしょう」

「オウム反対運動に反対の人も必ずいるが、恐れなくてほしい。自分たちの協力者を作ることで」等の意見が出た。

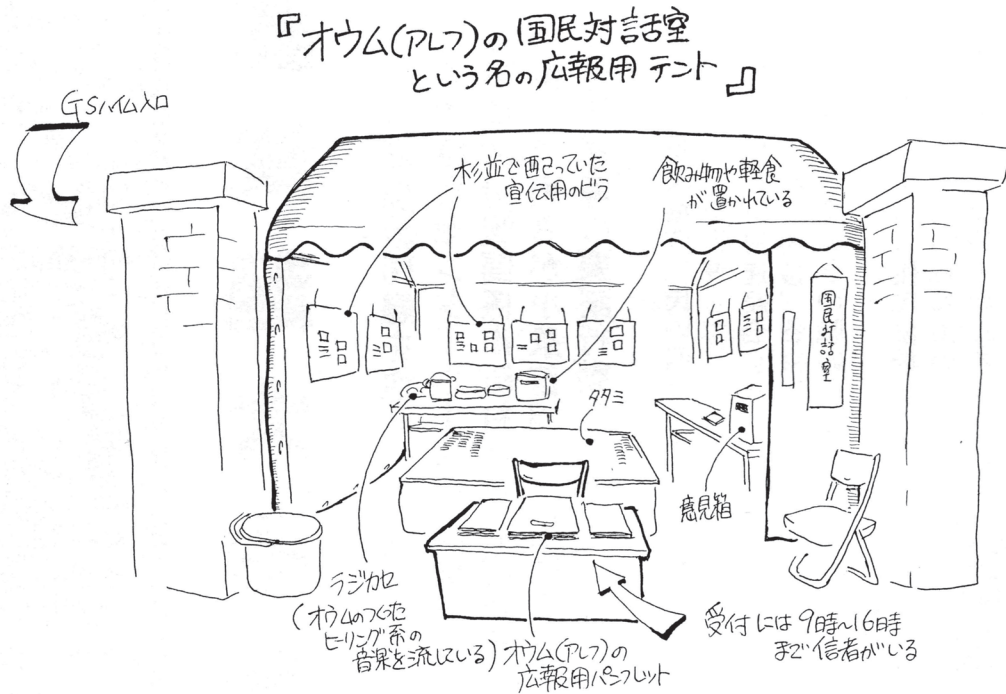
住民票訴訟、上告断念

6月6日(毎日新聞)

世田谷区は5日、オウム真理教(アレフに改称)の信者が同区などを相手取り、信者の住民票を削除した処分を取り消すことを求めた訴訟で、東京高裁が区側の控訴を棄却したことを受けて、最高裁への上告を断念、居住の実態がある信者の受理を決めた。

同区によると、最高裁が昨年、住民票削除の執行停止申し立てを却下した高裁決定を棄却したことを踏まえて「もはや司法判断に期待することは出来ない」(大場啓二区長)と判断した。同区は今後、同教団に対する観察処分継続などを国に申し入れるほか、オウム対策を盛り込んだ条例対策などに取り組む。

教団が「国民対話室」
を開設?!



4月5日、教団はGSハイム 烏山前に「千歳烏山国民対話室」を開設しました。「一般市民との対話と交流の場」としてはありますが、これまで教団が起こした数々の重大犯罪に対して真しに反省することなく、むしろ開き直った姿に私達はあきれてしまいます。対話室といってもスケッチしたようにいつでも撤去できる小さなテントです。しかも「対話」より「広報窓口」のように見えます。ここで布教活動が行われないように注意しなければなりません。

住民協議会で取り組んでいる「観察処分」更新の署名の提出期間が迫っています。6月中に支所・出張所へお持ちください。

「オウム教団施設体験レポート」 - 寄稿 -

開けられたドアから一步内に入る。と“ムッ”とする熱い異臭が鼻孔を刺激する。どう形容したら良いのか? 「古くなり傷んだ野菜をグツグツ煮込んでいるようだ」と言えば良いのか。「煮ても焼いても喰えない」という言葉があるが、それを無理に調理するとこういう臭いになるんじゃないだろうか。この臭いと並べられたスリッパの色を見て女性の大半が入室を断念する。ドアの内側に紙が貼ってある。「出入りの時、警官に挨拶するよう。四無量心(注)で接しましょう。」

ならば挨拶してくれるより教団を解散してくれる方がよほど楽を与えられ苦が除かれるのに、と衆生の一人としては思う。

最初の部屋に入る。入口左側、壁沿いにコンロがいくつ並び30cm程の蓋付きの鍋がグツグツしている。見つめる視線が思わずキツくなり、しばしそこに留まる。それで気づいたのか、「苦情が出ているので、臭いの強い調理は向かいの建物でやっています。」とのコメント。

(これより強い臭いがあるか? オイ)。鍋の傍らの壁にまたも貼り紙。「ゴキブリがいますので調理の前に内を確認する事」などなど。(ベジタリアンなのだな、きっと)

コンロ台の奥にプロパンガスの長いボンベが8本。こういう物は本来外にあるべき物ではないか? と疑問に思

う。

ガス台の横の壁沿いに、径30cm、高さ50cm程のタンクが並ぶ。上部に電極状の物が付いており、電気コードがくねくねと壁を這う。「甘露水」なるものを作っているような……。

コンロ・ガスボンベ・通電状態のタンクというのはかなり怖いカードだと思う。警察・公安・消防、の3つのカードで対抗しよう、とは思わないが、甚だ心許ない。“地震”というワイルドカードがでたら……、と思うとゾッとする。部屋の中にワサワサいるゴキブリが一斉にこちらを向き嘲笑うかのような気分だ。さらに、施設内部は窓がないので空気が淀み、全体にくすんだ感じがする。

退出し、皆上着やズボンをポンポンはたきながら「全員出た?」「点呼取ろうか」と本気とも冗談とも着かない事を言い合う。陽光が嬉しく「お日様」という言葉を久しぶりに思い出す。唐突に……人間たまには風を受けながら空に向かって伸びをし、陽を見つめて目を細める、ということをした方が良いなあと思う。(ま、好きずきですけどね……)

(注) 四無量心: 無量の衆生に対し楽を与え、苦を除かせようとして起こす“慈・悲・喜・捨”の四つの(無量)心。

住民協議会活動報告

5月30日(木) 協議会ニュース16号発行

5月31日(金)

PM2:00~3:15 「オウム真理教対策関係市町村連絡会総決起大会」に参加

PM3:30~4:30 松戸市・流山市オウム対策協議会と交流

PM6:30~8:30 区幹部職員との懇談会

6月8日(土) 企画部会

・松戸市・流山市との交流会報告

・今後の活動と組織の見直しについて

6月10日(月) 広報部会

協議会ニュース17号校正と18号について

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。